



Cisco Unified Contact Center Domain Manager

- [新機能 \(1 ページ\)](#)
- [更新済み機能 \(1 ページ\)](#)
- [廃止された機能 \(2 ページ\)](#)
- [削除され、サポートされない機能 \(2 ページ\)](#)
- [サードパーティ ソフトウェアの影響 \(2 ページ\)](#)

新機能

24000 エージェント導入タイプのサポート

このリリースでは、キャパシティの制限が拡張され、24000人のユーザと最大48000のスキルグループによる展開がサポートされるようになりました。

更新済み機能

管理者の非 SSO デフォルトドメインのサポート

このリリースでは、ユニファイド CCE 非 SSO 管理者ユーザのデフォルトドメインプロビジョニングが追加されています。デフォルトドメインが設定されている場合、[ログイン (login)] フィールドにドメイン名を指定せずに、管理者アカウントを作成または更新できます。デフォルトドメインは、ユーザのログイン名を変更せずにユーザに追加されます。その後、システムは、その UCCE クラスター用に設定されたグローバルカタログ (GC) に対してユーザのログイン名を検証します。設定が完了すると、管理者はログインで電子メール ID またはドメインを指定することなく、アプリケーションにサインインできます。

ECC ペイロードのプロビジョニング

このリリースでは、ECC ペイロードのサポートが追加されています。拡張コール コンテキスト (ECC) 変数には、コンタクトに関連付けられた値が保存されます。この値は通常、コール中に決定され、記録されます。ECC ペイロードを使用すると、ユニファイド CCE と統合されたシステムは、ECC ペイロードに変数を配置することにより、特定の通信パスを介して ECC 変数をより簡単かつ効率的に送信できます。ECC ペイロードのサイズは最大 2000 バイトです。ECC ペイロードのプロビジョニングは、Resource Manager ガジェットからのみ使用できます。

廃止された機能

レガシーリソースマネージャ

これは、レガシーリソースマネージャの最後のリリースであり、今後のリリースでは拡張されません。従来のリソースマネージャで以前に実行したすべてのタスクは、現在の Resource Manager ガジェット インターフェイスで実行する必要があります。

削除され、サポートされない機能

このリリースでは、削除された機能およびサポートされていない機能はありません。

サードパーティ ソフトウェアの影響

このリリースでは、サードパーティ製ソフトウェアへの影響はありません。